

# イノシシ

隠岐諸島を除く県下全域に生息しますが、近年に島根半島で分布を拡大しました。イノシシは、警戒心が強くて学習能力の高い動物です。被害に遭う前に適切な侵入防止柵の設置によって、農地を守りましょう。



## ◇イノシシの生態



身体的特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オスは牙がある。</li> <li>・足は偶蹄で、後ろ側には副蹄の爪がある。</li> </ul>
食性	植物性を中心とした雑食性。春期はタケノコ、夏から初秋は草本類、秋期はドングリ類や木の実、冬期は根茎類を食べる。その他に昆虫の幼虫、ミミズ、サワガニなども食べる。
運動能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高さは120cmを跳び越える能力がある。助走はせずに30～40cm手前から跳び越える。</li> <li>・20cmのすき間であれば、すり抜けることが可能。</li> <li>・鼻で持ち上げる力も強く、70kg程度の石を押し下にいる昆虫などを食べる。</li> </ul>
学習能力	非常に高い。人を見分けて、餌を食べた場所を覚える。
嗅覚	非常に優れている。
視覚	青系の色は識別できるが、赤や緑色は灰色と区別できない。

## ◇主な被害作物

被害の8割近くが夏～秋期の水稻です。穂の食害の他にも踏み荒らしとヌタウチによって、稲を倒伏させます。なかでも、乳熟期のものやもち米を好みます。また、畑、水田畦畔、幼齢造林地などでは、ミミズや昆虫の幼虫を探すためにほぼ年中掘り荒します。



ダイズの被害



サツマイモの被害



畦畔の掘り返し

## ◇イノシシの被害対策 ～侵入防止柵の設置～

侵入防止柵を設置する際は、効率的な設置ルートと効果的な侵入防止柵の選定を行います。そして、設置場所の傾斜等に応じて支柱の位置を変えるなどの工夫をしましょう。また、設置後は、柵の維持・管理を徹底しないと侵入を許すことになります。これらは、集落ぐるみで行うと効率的です。



倒木で破損した侵入防止柵

## ◇侵入防止柵の設置時期

まだ被害がない耕作地	周辺で被害発生があれば、被害の無いうちに設置すること。
無積雪地帯	可能ならば、年中設置すること(休耕時期に侵入を許すと、その場所は安全だと学習する)。
多積雪地帯	春期以降のなるべく早期に設置する。または、積雪に強い柵を選択する。

## ◇周辺環境の整備

イノシシは、憶病で環境の変化に敏感な動物です。人の活動による嫌がらせによって、農地に寄りつかなくなります。ただし、同じ環境が継続すると次第に慣れるので、忌避剤などの取り扱いなどには注意が必要です。



獣道の足跡

藪と掘り起し

ヌタ場

獣道を歩く、掘り起し周辺の繁みを刈り払う、ヌタ場にトタン板をかぶせるなど、嫌がらせをすることで警戒心を与えると、寄り付かなくなる。

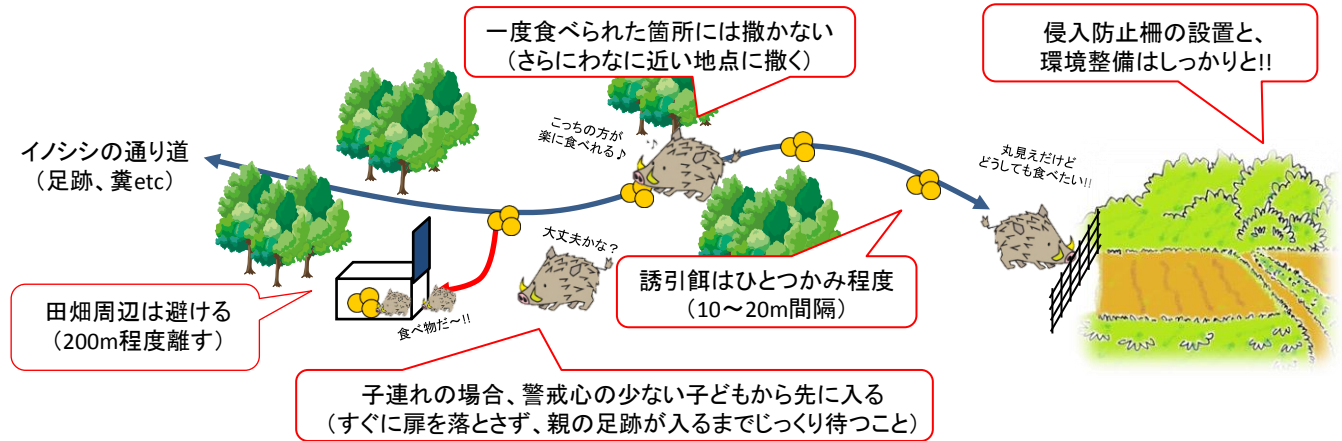


集落を囲う電気柵と管理道

見通しを良くして、定期的に見回りをしているところは被害も少ない。

## ◇効率の良い捕獲(加害イノシシの捕獲)

すべてのイノシシが被害を出すわけではありません。侵入防止柵を設置して、その周辺を環境整備したにもかかわらず出没するイノシシを捕獲することによって、被害発生を減少させることができます。



MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER  
島根県 中山間地域研究センター

担当科：鳥獣対策科

問い合わせ先：0854-76-2025 (代表)

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

E-mail：chusankan@pref.shimane.lg.jp